

津軽南部地方の湧水と水環境

弘前高等学校 福 士 壽 一

I. はじめに

日本は、温帯地域の島国のため降水量が多く山紫水明で、良い水に恵まれてきた。しかし、近年さまざまな地域開発が進められてきた結果、水をめぐる環境が悪化し、蛇口をひねれば安全でおいしい水が飲めるという神話がくずれてきた。大都市ではカビ臭や塩素臭、有害物質の除去のための浄水器がつかわれ、安全で健康や美容にもよい美味しい水としてボトルウォーターが発売されている。安全性に不安を持ちながらも、わが国の95%以上の人は水道の水を飲んでいるのであり、私達が住む津軽南部地方の人達の多くも、岩木川や浅瀬石川から収水している水道水を飲んでいる。

しかし、昭和30年頃までのわが国の水道普及率は30%に達せず、この津軽地方でも水道水を飲んでいたのは、昭和7年に着工し昭和11年に完成した弘前市街地だけであった（黒石市の水道は昭和38年）。一般の家庭では、手押しポンプ井戸・釣瓶井戸・掘抜き井戸・湧水（シッコ・シズコ）の井戸で飲料水をえていた。手押しポンプ井戸を除いては、10～20軒ぐらゐの共同井戸で、特に、掘抜き井戸・湧泉井戸は、現在の富田のシッコの様な水杵（大抵は2つか3つ）で飲料水をえ、米を磨いたり野菜などを洗ったのである。そこは井戸端会議の場であり、近所の人達の親近感の醸成の場でもありました。平賀町本町の私の家でも前の家の井戸へ天秤棒で前後に桶を担いで水を汲にいき、台所のめんじゃ（流し場）の桶に溜め、飲み水、洗面、煮焚きに使ったのである。汲むにいくのが少量であるので丁寧に使っていたと思う。水は少し赤茶けて渋みがあり今からいうとまずい水であった。昭和31年、後ろの家の掘抜き井戸をさらに上総掘り（となり村の大光寺に職人がいた。）で深く掘り、簡易水道になったので、前よりはおいしい水を蛇口で飲むことができた。母の里は弘前市小比内の船水家の湧水の井戸であったので、きれいでおいしい水が湧きでていて25軒ぐらゐの家で汲みにいっていた。山里などでは、小川の水で鍋や茶碗を洗ったりしていたが、ときどき腸チフスや赤痢などが流行した。

昭和30年頃から普及した簡易水道は生活を一変させた。蛇口から水がふんだんに出て、風呂を持つことができ、洗濯機を普及させ、食器洗いを簡単にさせた。人々の生活は衛生的になり、いわゆる垢抜けし、伝染病もびたりと無くなった。農村地帯も近代化がはじまり耕地整理が行われ、曲がりくねった堰もコンクリートの用水路に変わっていった。用水路には自浄能力を越えた汚濁排水が流れ込み、水質は急速に悪化した。私の所も、昭和63年には浅瀬石川ダムからの上水道がひかれ、今年からは下水道も引かれることになり、水環境も近代化してきた。

生活は効率化され便利になったが、味気ない直線的な風景が展開されるようになった。清らかな

せせらぎが失われ、潤いのある水場がなくなり、人々の関係も希薄になって情緒もなくなってきたのである。そこで、身近にある清澄な水で、古くから地域住民の生活に融けこみ、住民によって保全がなされてきた湧水が注目された。昭和60年環境庁によつて身近な環境を見直し、日本の水の貴重さが再認識されるよう「日本名水百選」が指標としてえられたのである。

II. 日本名水百選

わが国の水の貴重さの再認識や地域環境の見直し、さらに保護・保全への活動の呼び起こしの「名水百選」への選定に際しては、全国各地から784ヶ所の推薦があり、次のような基準により100地点が選ばれている。

- (1) 水質、水量、周辺環境、親水性の観点から見て、状態が良好。
- (2) 地域住民等による保全活動がある。

上の二項を必須条件とし、他に

- (3) 規模
 - (4) 故事来歴
 - (5) 希少性、特異性、普名度等
- を勘案している。

青森県では、弘前市の富田の清水^{シノコ}、平賀町の渾神の清水^{いのみ}がえられたのである。清水は、一般にはシミズ、キヨミズと言われているが津軽ではシツコ、シズコ、秋田・宮城ではシズ、スズ、北陸ではショウズ、九州ではソウズなどと呼ばれる。スズというのはススグの語幹で「水で清める」意から「清進潔斎する場所」で宇治山田（現伊勢市）の五十鈴川などそれにあたるが、スズというのはきれいな水と関係があり、スズ（鈴・珠洲）、スズキ（鱸・鈴木・鈴置・須々岐）という地名も水の湧き出るところと関係があるようである。

津軽のシツコ・シズコのコというのは、ベコッコとカリゴッコと同じ接尾語と考えられる。ちなみに、弘前市大清水をいまではオオシミズとよんでいるが、前にはオオシズとっており、これは津軽弁でもなんでもなく、こちらが本来の呼び方といえるのである。

そこで青森県の百名水について述べてみよう。富田の清水は大和沢川扇状地の末端部の湧水で、貞享3年（1686）、津軽藩主信政のとき、旧郵便局のところに紙漉座を開き、御用紙を漉いた。越前の熊谷吉兵衛（2代目から喜兵衛）、三河の今泉伝兵衛、新井吉兵衛、美濃の白川七右門、仙台白石の紙漉職人を招いて、楮^{コウゾ}町（現在は中央分離帯に福井から取寄せた楮を植えている）に楮を植付け、その楮を使用し、富田のシツコで漉たのである。元禄11年の「弘前総御絵図」では、御膳水のところから保健所西南の低いところまで清水の沼袋になっている。藩政時代は大八車で水桶で一杯いくらで売りに歩いたという。土手町の商家の若い女房や丁稚^{ちやぢ}たちが、朝起きると、ここに水を汲みにくるのが日課であり、昭和の初め頃まで重い天秤桶を担いでいたという。製紙は明治になってから楮畑が払下げられて一株もなくなり、専ら紙屑を漉き直して細々として行っていたが、昭和2年全部廃業したという。現在は共同水場として利用され、水槽が4つに仕切られ、水の流れる順

に飲料・米磨き・食器洗い・洗濯と使い方のルールが決まっている。

渾神の清水は、町の中心から軍馬平高原に至る岩山の麓の道沿いにある湧水。昔の旅人が平賀町の唐竹^{からたけ}から小国に山越えする前に喉を潤したり、軍馬平の秣山^{まぐさ}にいく前に人馬が水を飲み一休みする所であった。また、延暦年間坂上田村麿將軍が蝦夷征伐の陣をはったとき眼病になったさい、ここの清水で目を洗うと治ったという伝説があり「目神の清水」といわれ、目の守護神として崇められてきた。

ここでわが国の水がなぜ美味しいのか触れてみたい。日本では山がほとんど木々の緑にかこまれ、巨大な水がめとして機能している。雨と雪は落葉広葉樹（西南日本も高い山）の森によって濾過され、地下水となり川となる。日本の河川は急流が多く、水中にたくさんの酸素を含むことになる。また、溪流沿いの樹木から大地の石灰分を吸いあげた葉が落ち、河水はまた石灰分も多く含んでいる。また、山に沁みこんだ地下水も、日本は火山が多く地層の勾配も急で地下水の流れも速く、水の新陳代謝も早い。日本の水の土中での滞留時間は一般に数年から数十年であり、山麓や扇状地の浅井戸の水は一般に新鮮で味がよい。ヨーロッパの水の平均滞留時間は数百年であり、ミネラル含有量が多くなり過ぎてまずい水になる場合が多い。数値については資料①を参照されたい。まずいといわれる水道の水でも冷蔵庫に入れて14～15℃に冷やせば、いく分おいしく飲める。

資料① おいしい水の水質条件
(厚生省)

水質項目	数 値
蒸 発 残 留 物	30～200mg/l
硬 度	10～100mg/l
遊 離 炭 酸	3～30mg/l
過マンガン酸 カリウム消費量	3mg/l以下
臭 気 度	3以下
残 留 塩 素	0.4mg/l以下
鉄	0.02mg/l以下
pH	6.0～7.5
水 温	20℃以下

Ⅲ．湧水の形態

次に湧水の形態について述べてみたい。地形で見ると扇状地の末端部の湧水は量も多く、飲料水・酒屋・醤油・サイダー・紙漉・紺屋・それに農業用水など生活用水として利用されていることが多い。崖下湧水は水が少量で、弘前南高校北西の笹清水権現・浪岡の北中野の金光清水・黒石牡丹平の法華清水などがあり、信仰との関係が深い。谷地頭湧水は水量も多く、岩木山麓ではいろは庭の養魚場・小杉沢の水道水源・農業用水・桜林の水道水源・岩木山神社の御神水・または小沢大開の水源など信仰にも関係があるが、どちらかという和生活用水として使用されている。

湧水タイプとしては、裂罅^{むつせん}泉は岩石の割れ目や節理の裂け目から湧き出す清水であるが、東目屋の清水観音水（多賀神社）・渾神の清水がある。池状泉は湧水が盆状の窪んだ池のような底から湧き出す清水であるが、大鱧三目内川上流の十和田貴船神社がある。浸出水は地層の間から浸み出すように湧き出てくる清水であるが、弘前市石川の御茶の水・平賀善光寺平山みち途中のマリアの清水などがそれにあてはまる。

IV. 津軽南部地方の湧水

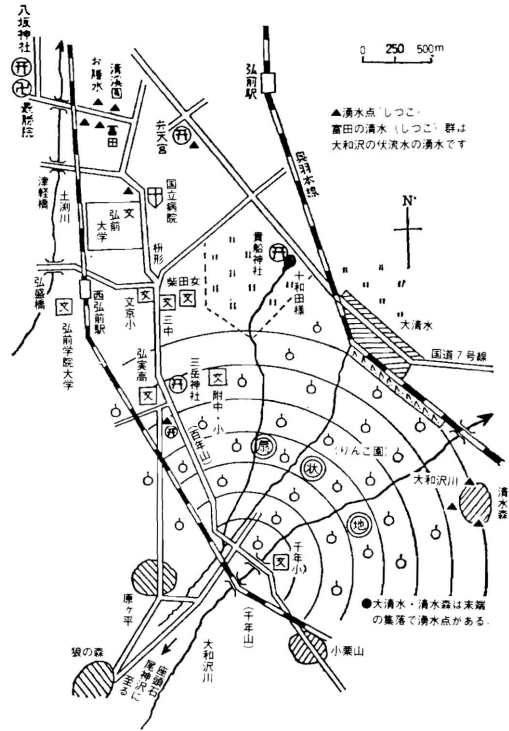
「日本名水百選」に準じて、昭和60～63年までに、青森県で「私達の名水」が選ばれた。(資料②)、30のうち27が湧水で、3が河川水(うち滝2)である。そのうち津軽地方のものは19で全部湧水である。それらも含む津軽南部地方の湧水について述べてみたい。資料③・④と写真も参照され読んでもらいたい。(以下の番号は、資料②のものとは異なる。)

- ①久渡寺(弘前市)……護国山観音院を2代藩主信政が祈願所として久渡寺と改称。津軽三十三観音巡り一番札所・羽黒湧水。
- ②小沢龍神温泉(弘前市)……古山宅の黒姫・山神両龍神の湧水・白蛇神社も近くにある。
- ③大開水源地(弘前市)……小沢大開の谷地頭湧水。もと弘前市水道の水源。現在はタムロンに供給している。
- ④笹清水九頭龍権現(弘前市)……弘前南高校北西の崖下湧水。江戸時代に秋田の浪人笹田儀右衛門という人がきて、現在の青銀弘前本店のところで紅花店を開いた。ある日、台所から1ぴきの蛇が出てきたので「蛇は黄金の神と申す」といって飼ったところ大繁盛した。ところがだんだん大きくなって来客が気味悪がったので、宇和野の森の老松の霊泉の湧くところを見つけてきて、「おかげで大繁盛したが、あまり人目につくようになった、よい棲家を見つけてきた」といって、そこに棲まわせ、吉日をえらんで九頭龍大権現として祀ったのがいまの神社という。
- ⑤座頭石(弘前市)……神社は最上神社というが、昔は「おがみ神社」といった。おがみは霊とかき、龍神である。断崖絶壁をめぐる大和沢の上流の沢は尾神沢で龍神の尾にあたり、大和沢川の流れ自体は龍神の胴体で、貴船神社の池は頭である。龍蛇は地表を走るだけでなく、水のように地中に潜る。自由自在に頭を出したのが各地の清水である。中野の清水・三岳神社の龍神・胸肩神社・取上貴船神社・大清水・清水森の清水などまさに八頭龍である。また、尾神沢の弁天堂は、大清水・堀越の人達の水源信仰の現れである。山上の羽黒清水は座頭が目を洗う水を汲みにいった所といわれている。
- ⑥富田の清水(弘前市)……前述。
- ⑦御膳水(弘前市)……明治14年(1881)、明治天皇が御巡幸された折りに、料理やお茶にこの水が利用された。水槽は3つで、第1、第2が飲料水で、第3の枠で器物類を洗浄している。一度水涸れになり、昭和59年修復されたが、現在また水量が少なくなっている。
- ⑧胸肩神社(弘前市)……市杵島比売・田心比売・多岐都比売の宗像三神を祀り、境内に清水が湧き、通称「弁天様」といわれている。美人になるといわれ、龍蛇の絵馬が奉納されている。弁才天はインドの神の名で聖河の化身という。仏教に入って舌・財・福・智慧・延寿を支え戦勝を得させる女神。
- ⑨取上貴船神社(弘前市)……大和沢川扇状地伏流の湧水池で閻霊神を祀る十和田様。現在、池

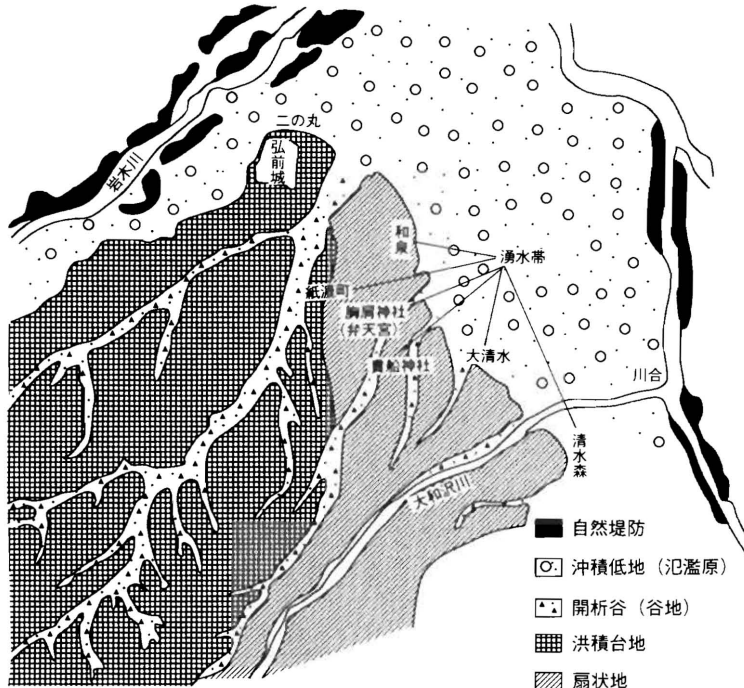
資料② 「私たちの名水」の水質調査結果

認定 年度	名	称	市町村名	形態	水温 ℃	気温 ℃	pH	BOD mg/ℓ	COD mg/ℓ	塩素イオン mg/ℓ	有機物等 mg/ℓ	硝酸性窒素,亜硝酸性窒素 mg/ℓ	湧出量 ℓ/分	採水年月日
昭和 60	1 横内川	(よこうちがわ)	青森市	河川水	7.6	—	7.1	0.5	—	9.8	3.8	0.05	—	S59年度平均値
	2 安田水大宮	(やすだみづおみや)	青森市	湧水	6.2	-0.2	6.7	<0.5	—	23.0	1.7	3.70	—	S61. 2.17
	3 御膳水	(ごだんみづ)	弘前市	湧水	9.0	4.5	6.0	<0.5	—	26.3	0.6	5.56	—	S60. 3. 4
	4 小田内沼湧水	(おだないぬまのうみず)	弘前市	湧水	11	15	6.7	0.5	1.4	12.0	—	0.02	—	S60. 9.25
	5 神明宮のトヨの水	(しんめいみやのとのみづ)	深淵町	湧水	—	—	6.8	<0.5	—	41.1	1.5	1.37	—	S61. 2.18
	6 神楽池の湧水	(かみがたけのうみず)	岩崎村	湧水	14.1	—	7.6	<0.5	0.3	18.6	—	0.00	—	S57. 7.10
	7 御神水	(ごしんみづ)	岩木町	湧水	8	13	6.5	<0.5	—	14.0	0.3	0.17	—	S60.10.21
	8 十和田霊泉	(とわがしん)	浪岡町	湧水	7.5	20	7.5	<0.5	—	24.7	0.8	0.03	—	S60. 6.26
	9 倉水ツコ	(くらみずつこ)	中里町	湧水	11	15	6.7	<0.5	—	64.0	3.0	7.70	—	S60.10.21
	10 湧つぼ	(うきつぼ)	中里町	湧水	10	14	6.7	<0.5	—	27.0	0.6	0.06	—	S60.10.21
昭和 61	11 御茶水	(おんすゐのみず)	弘前市	湧水	10.5	16.0	6.8	—	—	8.2	0.3	0.03	約 10	S61. 7. 1
	12 十日内の寒水	(あつゆまのひやみず)	黒石市	湧水	5.0	16.0	7.1	—	—	6.0	0.4	0.32	約1400	S61. 8.20
	13 沼袋の水	(ぬまぶくろのみず)	十和田市	湧水	12.0	3.0	6.5	—	—	22.3	2.5	325	約5700	S61.11.18
	14 白上の湧水	(しろうえのうみず)	十和田市	湧水	12.0	3.0	6.5	—	—	27.1	2.2	3.24	約8400	S61.11.18
	15 落人の里の水	(おちうたのさとのみず)	十和田市	湧水	10.5	3.0	6.7	—	—	12.2	1.4	2.44	約 100	S61.11.18
	16 水大明神の水	(みづあきみじんのみず)	十和田市	湧水	13.0	3.0	6.0	—	—	31.4	2.6	3.24	約 5	S61.11.18
	17 小杉沢の湧水	(こすぎさわのうみず)	岩木町	湧水	7.0	16.0	7.1	—	—	—	—	<0.02	約5600	S61. 7. 1
	18 観音清水	(かんのんしみず)	平賀町	湧水	11	30	8.4	—	—	28.4	2.2	6.70	約 200	S61.6.9/8.28
昭和 62	19 清水観音水	(しみずかんのんのみず)	弘前市	湧水	10.0	24.0	6.7	—	—	21	0.9	0.29	100	S61. 9. 4
	20 堂ヶ平桂清水	(どうがへいかいのみず)	弘前市	湧水	10.0	25.0	6.7	—	—	9.5	0.3	0.25	170	S62. 8. 3
	21 羽黒神社霊泉	(はぐろじんじゃのみず)	岩木町	湧水	12.0	25.0	6.8	—	—	28	1.5	1.8	100	S62. 7.20
	22 八甲田清水	(はつこうだのみず)	十和田湖町	湧水	6.0	18.0	6.8	—	—	3.2	1.3	0.05	2500	S62. 6. 3
	23 関根の清水	(せきねのみず)	三戸町	湧水	8.0	17.0	6.5	—	—	16	4.1	1.4	10	S61.10.19
	24 白翁泉	(はくおうせん)	三戸町	湧水	10.0	17.0	6.5	—	—	29	4.7	1.7	100	S62.10.19
	25 弥勒の滝	(みろくのみたき)	田子町	河川水	0	0	7.2	1.2	—	—	—	—	—	S62.12.17
昭和 63	26 現現様の清水	(ごんげんごんげんのみず)	五所川原市	湧水	10.0	21.0	6.8	—	—	23	—	0.09	20	S63. 6.21
	27 寺下の滝	(てらしたのみたき)	階上町	河川水	11.0	14.0	7.0	0.6	—	—	—	—	—	S63. 6.22
	28 階上巨龍神水	(はしかみだけりゅうしんのみず)	階上町	湧水	6.0	17.0	6.1	—	—	<5	1.7	<0.01	10	S63. 6.22
	29 マリア清水	(まりあしみず)	平賀町	湧水	9.0	18.0	7.5	—	—	12	1.6	0.24	10	S63. 7.20
	30 広岡垣黒さま	(ひろおかはくろくさま)	木造町	湧水	5.0	18.0	5.9	—	—	5	2.5	6.5	100	S63. 7.26
水道法による水質基準														
環境基準 (河川：A)														
pH														
5.8～8.6														
BOD														
2以下														
COD														
10以下														
有機物等														
10以下														
塩素イオン														
200以下														
硝酸性窒素,亜硝酸性窒素														
10以下														

資料③ 大和沢川扇状地と湧水点



資料④ 弘前市街地と周辺の地形



は埋め立てられて、子供用の遊園地になっている。

⑩市立病院裏の清水（弘前市）……昔は共同井戸、現在は簡易水道。

⑪小比内集落の清水（弘前市）……昔は共同井戸、現在は簡易水道。板垣家清水21軒→5軒、船水家清水25軒→14軒、丹藤家清水20軒→7軒。

⑫リング畑の清水（弘前市）……堀越小学校北方。休憩時の飲用と農業用水。

⑬農業用水の揚水場（弘前市）……堀越小学校西方の十字路。現在はポンプによって揚水。

⑭大清水集落の清水（弘前市）……葛西俊三家の裏庭。現在は水涸れ。

⑮清水森集落の清水（弘前市）……^{きんぶ}金峰神社は旧蔵王宮で神仏分離で、祭神は^{ひろくにほしなげかねひつみこと}広国押武金日命となったが、本来は吉野山の水神を祭り、裏の小池に龍神を祀っている。津軽為信が津軽を統一すると、敵味方の戦没者の霊を慰めるために大祭壇を築き、領内の全僧侶を集めて一週間の大法要を行い、ここの良水を献じたという。称名庵の裏にも清水が一つあり、工藤秀郎家の門口の下から湧水がでており、夏場はスイカやビールを冷やしている。

⑯～⑰までの清水は、大和沢川扇状地の扇端部の湧水である。

⑰堂ヶ平桂清水（弘前市）……大沢南方の堂ヶ平山の中腹にあり、津軽地方の修験の地として古い歴史を持つ。樹齢700年ぐらゐの燈明杉があり、藩政期には金光山市応寺という修験寺がおかれた。現在の堂社の中心は毘沙門堂で、掲額は毘沙門天・不動明王・観音で比叡山信仰を示している。それに池の中に弁天堂がある。中世の天台寺の本尊は桂泉観音で桂の一本の鉞彫である。天台寺の天台寺文化に連なると考えられるが、麓の清水一桂清水信仰もここまでとどいたと思われる。ここの湧水も桂の樹の根元の石造の龍の口から水がほとぼしっている。健康水として汲みにくる人が多い。

※桂清水……比叡山に天台法華宗を開いた最澄は、神仏混淆が進みつつあった時代背景のもとに、地主神の大山咋神を護法神として祭り、神仏一体の^{まこといしちつ}山王一実神道が生まれる基礎をつくった。つづく、円仁（慈覚大師）は密教を学び、唐から帰朝後、横川に根本観音堂を作り観音・毘沙門崇拝のいとぐちをつくり、神仏混淆を進展させた。円仁に認められた、相応は密教で重ずる行門＝実践に力点をおき、修験道化を促進させた。相応は生身不動明王の自覚をもつため、^{むねぼし}回峰修行を行い、また比良山西麓の葛川の滝に籠って難行苦行の末、滝の中に不動明王の姿を感得し、抱きついたところ、それは一本の桂であったという。その桂で一千日の難行の上、不動明王を彫って祀り、葛川明王院を開創した。滝のところに不動明王を祀ることが多く、水神信仰と結びついている。なお、桂清水は、岩手県浄法寺の天台寺から、秋田県大湯一米代川畔の^{しんた}神田一十二所三哲山一比内前田一白沢御膳水から津軽に続いている。また、私の生まれた家にも桂の木があり、葉っぱを乾かして揉み、桑の葉の乾かしたのと混ぜ、抹香をつくり、仏前に供えていたことを思い出す。

⑱石川御茶水（弘前市）……尾開山の中腹にある。地元では長坂の水っことも呼んでいるが、明治14年、明治天皇が東北御巡幸の折に、石川でご休憩され、ここの水でお茶を召されたこと

による。

⑱十和田貴船神社（大鰐町）……三目内川上流の十和田山山中の貴船神社は、津軽の十和田様の代表で単に十和田様といえばここを指す。藩政時代には藩命で雨乞いをした。山深いため江戸時代から遙拝所が設けられていたが、現在は本尊を三目内の遙拝所に本尊を移して貴船神社としている。山上に池があり、三目内川から平川下流の人々が毎年旧4月19日に参詣して豊凶を占う。池を3つに区分し、「モチ」といわれるクロサンショウウオの卵の深淺多少で、早稲・中稲・晩稲がよいか判断をする。また池辺につどいて、米銭の参供（散供）を池水に沈め、身の吉凶、年の豊作を占う。水源信仰の場である。なお、宮司は本校の木田多門先生のお父上の繁知代氏である。

⑲大円寺（大鰐町）……もと高伯寺といって東北自動車道北の山手に礎石を残しているが、慶安3年（1650）3代藩主信義の発願によって現在地へ移された。本尊は木造阿弥陀如来像（国重文）。明治初め弘前から真言宗の本寺が移ってきて寺号を改称。門前の萩桂は、木は桂、花が萩に似た奇木として有名。現在は2代目。（雌桂は萩のような花が咲き、岩手では萩桂と呼んでいる。）桂の近くには「重万」「神勘」の清水があり、大鰐の湯野川原から湯をぬるめる水として桶で汲みにきた。現在は日景食堂で使用している。天台宗の唐僧円智が開かれたという伝承もあり、弁天堂もあり、桂清水とも考えられるので、古くは天台系であったと思われる。

阿闍羅山は古くから信仰の山で、アチャラは不動明王、中腹に雨池があり、頂上にも小十和田の小池がある。

⑳乳井神社桂清水（弘前市）……鎌倉時代の嘉禄2年（1226）に毘沙門堂の別当職が榮秀から子の長秀に受継がれたことが執権北条泰時に承認されている。当社別当福王寺は比叡山系（天台密教系）の修験場。桂の大木はないが、桂清水が残っており、湧水からパイプで神社前に水を引いており、蛇口から水を飲むことができる。

㉑広船観音清水（弘前市）……観音清水がある広船神社の観音堂は、津軽三十三観音の第28番札所。正長2年（1429）の銘の鰐口がある。観音清水は裏山の湧き水から引いてきている。簡易水道としても利用している。

㉒渾神の清水（平賀町）……前述。

㉓マリア清水（平賀町）……高冷地野菜の産地として知られる善光寺平にいたる山道の途中、白いマリア像がまつられ湧水が流れている。この清水は昭和27年の入植時から愛飲していたが、32年に、黒石カトリック教会が善光寺教会を建て布教伝導したさい南フランスのルルドの泉にちなんでマリア像が建てられた。

㉔桜清水・法華清水（黒石市）……豊岡、牡丹平の崖下の清水。さくらは、サクル（抉）でえぐる、くりぬく、決壊するの意で台地が入りこんで刻られたところにつく地名。牡丹平の崖下の湧水の法華清水は黒石妙経寺発祥の地として信仰されている。両方とも簡易水道に利用さ

れている。

- ②⑤猿賀神社水天宮（尾上町）……旧名は深沙大権現で深沙大将とは、北方鎮護の毘沙門天（多門天）で、妙見（北極星）に化身する。弘前の長（うしとら＝東北）にあたり、京都の鬼門の延暦寺、山王日吉神社、江戸の上野の寛永寺・東照宮と同じ発想で神社を祀る。境内の鏡池の弁天島には、弁天堂があり、山王日吉の小社がある。境内には水天宮があり、北の後には明治天皇が明治14年八幡崎にご休憩されたときの御膳水があるが、今は水が涸れている。
- ②⑥羽黒神社の霊泉（岩木町）……宮地の羽黒神社は、羽黒系の筆頭社として藩政時代から信仰されている。境内の清水はきれいな上、水量も多く、眼病に効くといわれている。ここも坂上田村麿が眼病を治したという伝説がある。健康水として水を汲みにくる人々が多い。
- ②⑦岩木山神社御神水（岩木町）……明治初期まで光明院^{つみくま}百沢寺（真言宗）と神社の神仏混淆で、鳥居はあるが寺院の形式をそなえていた。明治初めの神仏分離で寺院は廃止された。御神水は桜門の手前右の奥にある。石柱の三方から水が流れ落ちる。この水で、人々は身につけている罪や穢れを浄め入山する。
- ②⑧清水観音水（弘前市）……かつては清水の観音と呼ばれていたが、明治3年（1870）の神仏分離で多賀神社になった。寛文3年（1663）4代藩主信政公が京都の清水寺の舞台を模して建立。津軽三十三観音巡りの2番札所となっている。巨岩の間から清澄な清水が流れていて、清水龍神大神と書かれている。
- ②⑨小杉沢の湧水（岩木町）……岩木山の東麓弥生集落の北西の山林の中に湧く。男壺・女壺の2つの湧きつぼがあり、水量豊富である。女壺は弘前市の西部水道小杉沢水源地となっている。他は農業用水に広く利用されている。
- ③⑩十和田神社の霊泉（浪岡町）……吉野田にある。昔、高野千坊があったといわれその1つ。霊泉は各地から集まった修験者たちの水行の場である。散供場の池もある。
- ③⑪浪岡八幡宮の湧水
湧水池に十和田神社を祀り、町の人達は水神としている。
- ③⑫美人川の湧水（浪岡町）……五本松の羽黒神社の側の湧水。昔、京都の近衛家の福姫が、生まれつき不器量で縁組がなかった。占いによって夫になる人がみちのくの外ヶ浜にいと知らされ、はるばる津軽の国に旅してきた。五本松のところまできて、そばを流れる小川のほとりで顔を洗い水鏡に映してみると醜さはすっかり変わり美女となっていた。これも神仏の加護と喜び、川を美人川と呼ぶようになった。
- ③⑬金光清水（浪岡町）……北中野金光上人の墓の台地の崖下湧水。今はすっかり涸れているが、目をなおす清水として信仰された。

V. おわりに

日本は、古来より豊葦原瑞穂とよあしはらみずほの国といわれ、水田農業を中心に豊富な水を利用して生活が営まれてきた。世界の年平均降水量は973ミリであるが、日本はその1.8倍の1788ミリである。しかし、降水量の多い年もあるし、少ない年もある。多いときは洪水になり少ないときは渇水になる。水田の灌漑がうまくゆくかどうか、人々にとっては死活問題である。津軽藩では、野内貴船神社（風雨）を始め浪岡五本松の加茂神社（雷雨）、木造館岡の広瀬神社（風神）、深浦成瀬の龍田神社（風神）を領内4社として、雨乞い・止水の祈願をしていた。水源近くにある十和田神社も水源信仰のあらわれである。水の恩恵に感謝し、水の恐怖を諸神仏に祈ったのである。稲作民族であるアジアの人達は、東南アジアでは水神ナーガ、東アジアでは龍蛇を水神として信仰してきた。龍は雲を得て昇天するというが、雲が多くなれば雨を降らせる。地上の河の流れも龍蛇に似ている。水は西目屋の乳穂が滝の水柱のように不動明王・龍神の御神体となるのである。鎌倉3代将軍の歌に「時によりすぐれば民のなげきなり八大竜王雨やめ給え」があり龍蛇神を司水神としたのである。豊かな水の根源は山にあり、稲作の成否は豊かな水が得られるかどうかにかかっているため、山岳信仰は多くの農民の信仰を集めた。稲作の豊作を祈願する山伏の修行が行なわれ、出羽三山や岩木山の山岳信仰もその例である。

また水は、罪・汚れを祓う力を持つ。水浴すること、水を飲むことによって身心を潔め生れ変わる。もっとも生気のある水は湧き出したばかりの水である。正月に若水を汲み神にささげ、一年中の邪気を払うのも、泉や滝が信仰の対象になっているのもこの理由による。昔の人々は病気になると、金もなく、いい薬もないので湧き水を汲みにいき、祈祷してもらい、神仏に祈り、病気を治そうとしたのである。とくに目は湧き水のきれいな水で洗うと治り、霊験あらたかなので目神の清水として信仰され、伝説もよく残されている。

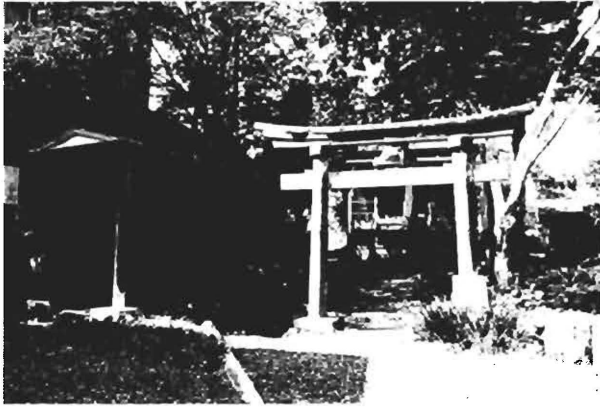
湧水は神仏混淆の修験の場として、古い時代の津軽の神社や仏寺の誕生の地となり、津軽藩発祥により弘前市街地の神社・仏閣が建てられる前からの信仰の場として現代まで連続として続いている所が多い。

昭和30年から始った生活の近代化は、私達の生活にいろいろ影響を与えてきた。弘前市街では下水道の工事によって水脈がきられ御膳水などの水涸れをきたしている。また、富田の清水など雑用水の浸透による汚染が心配される。さらに大和沢川上流にダムを建設する計画があるが、扇端部の御幸町・清水森などの飲料水、奥羽本線近くのりんご加工・洗濯工場や農業用水に影響がないものかどうか心配される。農業用水ではダムができ、用水路ができて水不足の心配がなくなったが、用水路はU字溝になり、川岸の木々の緑がなくなり、フナやドジョウが住めなくなり、トンボなどの昆虫もいなくなり味気ないものになった。最近それが反省され、河川の近自然法工法に工事が行われるようになってきている。弘前運動公園近くの腰巻川がそうになっているが、まだまだ違和感がある。違和感といえば、平賀の渾神の清水もあまりに近代的に造り過ぎて不評である。また、前には清水

からの清流にホタルが飛んでいたのにU字溝になっていなくなってしまった。人為的な環境によって私達は多くのものを失ってきたのである。

最近、コンクリート化によって失われた水辺を市民の手に取り戻す水辺復権運動が盛んになってきた。大小の河川や、泉・池・沼は身近な自然のなかでとりわけ楽しみの多い場所として人々の記憶に残っている。「神が自然（田園）をつくり、人間が都市を造った」という諺があるが、人間は近代化＝都市化の過程で水と緑を多く利用し、かつ、失ってきたのである。前は飲料水と農業用水だけの利用であり、そう汚染されずに水循環が行われていたが、現在工業用水・上水道・下水道などで大量の水が利用される。家庭の日常生活で使用する水の量は、飲み水の200倍近くになっている。都市住民一人・一日あたり500リットルを使用している。洗剤などによる生活排水の汚染が心配される。また農業用水も、化学肥料、殺虫剤、除草剤などによる汚染も心配される。

人々の水を清浄に保つという生活倫理が失われたのは、水道が設置されてからという。水道のもたらした利便性は前述のように大きい。便利になった分だけ水の使用量も増加し、自然の水に対する感謝と畏敬と祈りの心は消失していった。水や川を汚さないという生活規範はゆるんだのである。私達はもう一度水環境を考えなおさなければならない。自己と子孫がおいしく安全な水が飲めるように、水源の山の緑を保全し、生活排水の汚染を少なくし、環境アセスメントを厳しくし、自然と人間が共生できるようにしなければならない。



② 小沢龍神温泉裏古山家の湧泉



④ 笹清水九頭龍権現の湧泉



⑧ 胸肩神社の弁天様の湧水



⑪ 小比内船水家の清水（現在は簡易水道）



⑬ 清水森工藤家の門口下からの湧水



⑯ 堂ヶ平桂清水の龍口からの湧泉



⑪ 浪岡吉野田の十和田神社の霊泉



※ 岩手県浄法寺町天台寺の桂清水